

アゼルバイジャン経済・財政(1)

概況

- アゼルバイジャンの経済は、2005～2014年にかけて豊富な石油・ガス資源を背景に飛躍的に発展したが、その後油価の下落に伴い低迷。2022年以降は、コロナ禍の影響低下と、ロシア・ウクライナ情勢の影響による油価上昇及び天然ガスの輸出需要増大を受け経済は回復基調にある。
- コロナ禍後のエネルギー需要の急増及びロシア・ウクライナ情勢による油価上昇により、GDPは増加した。
- 国内総生産（GDP）の約3～4割、輸出高の約9割を石油・ガス部門が占めており、依然として石油・ガス部門への依存度は高い。
- 石油・ガス収入を基にしたSOFAZ（国営石油基金）の積立金が財政収支・国際収支を底支えし、マクロ経済の安定性維持の要となっている。

経済データ

人口（2025年）：1,022万人
 名目GDP（2025年）：759.37億米ドル
 一人当たり名目GDP（2025年）：7,413.1米ドル
 実質経済成長率（2025年）：1.4%
 消費者物価上昇率（2025年）：5.6%
 貿易額（2025年）：輸出額 245.3億米ドル（2024年263.4億米ドル）
 輸入額 243.8億米ドル（2024年210.6億米ドル）
 貿易収支 1.5億米ドル（2024年52.8億米ドル）
 主要貿易相手国（2025年）：イタリア、トルコ、ロシア、中国、スイス、アメリカ（貿易額順）
 為替（対米ドル）：1米ドル=1.7マナト（2017年以降米ドルに実質固定）
 平均月収（2025年）：1,102.9マナト
 失業率（2024年）：5.3%
 政策金利（2026年2月時点）：6.5%
 （出典：為替及び政策金利は中央銀行、その他は国家統計委員会）

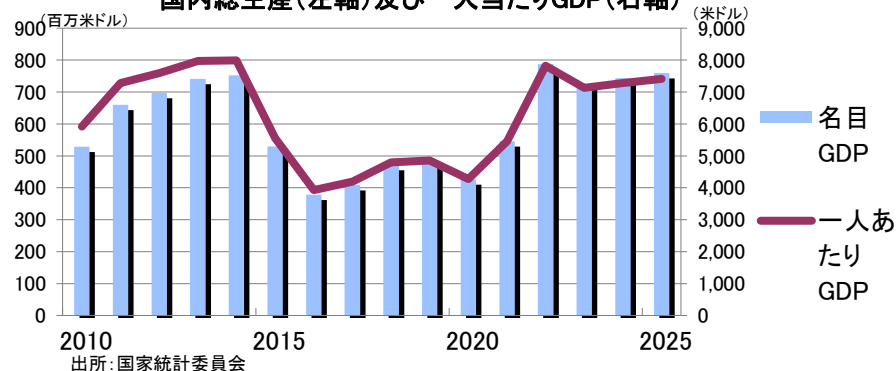
財政データ

当国財政年度：1月～12月
 国家予算（2026年）：歳入386億マナト
 歳出417億マナト（財務省）
 外貨準備高（2026年3月）：851.7億米ドル（中央銀行+SOFAZ）
 対外債務残高（2024年10月）：52.9億米ドル（GDP比7.4%）（財務省）

景気動向

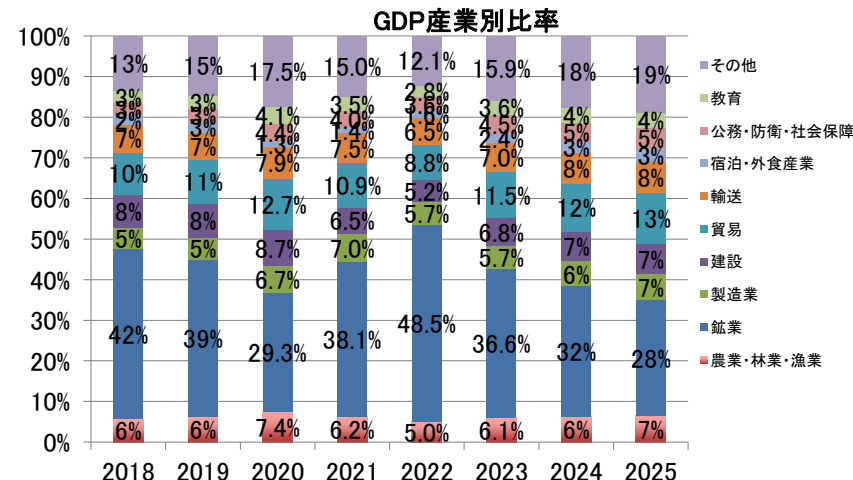
- 2014年後半から2016年にかけての経済危機（マイナス成長）後、数年は油価の上昇を受け緩やかに成長。コロナ禍による景気後退を経て、ロシアのウクライナ侵略等による油価高騰及び欧州のエネルギー需要増加により2022年の名目GDPは過去最高を記録。

国内総生産（左軸）及び一人当たりGDP（右軸）



GDP産業別比率

- GDP全体の約3～4割を鉱業（石油・ガス生産）が占め経済を牽引している一方、就業人口の4割が従事する農業の割合はわずか。





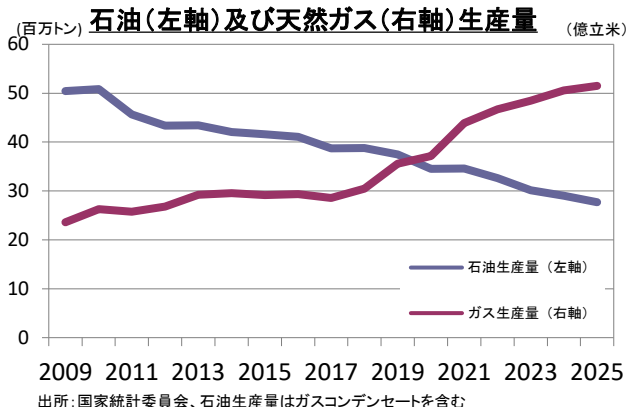
アゼルバイジャン経済・財政(2)

2026年5月

在アゼルバイジャン日本国大使館

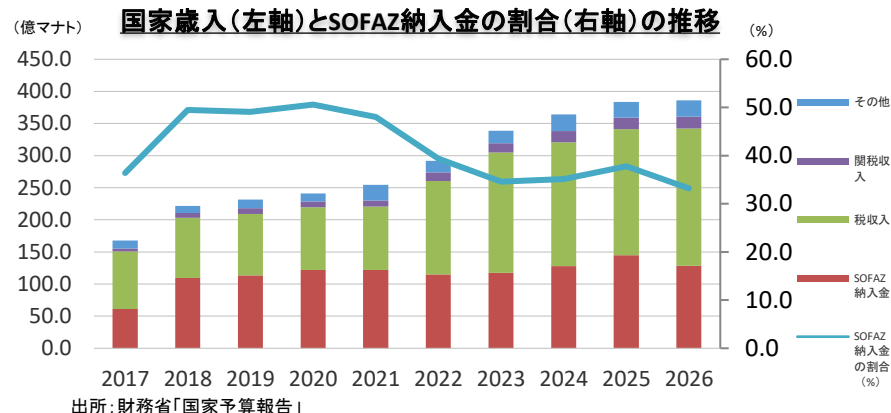
原油・ガス

●原油生産は2010年以降減少傾向にある。天然ガス生産は近年増加傾向にある。また、2024年にACG鉱区の天然ガス開生産契約締結等、天然ガス生産量の維持・拡大に向けた動きも見られる。



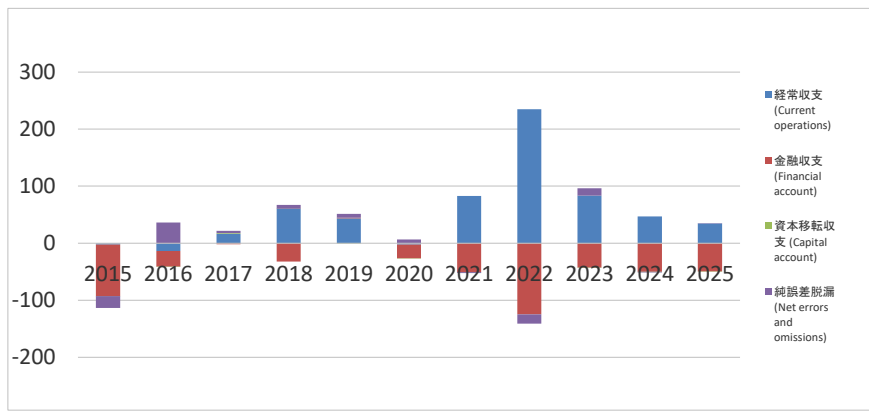
国家歳入とSOFAZ納入金

●国家歳入については2018年以降、税収増加を主要因として増加。SOFAZ納入金の割合は、2020年を境に全体として減少傾向にあったが、2023年から2025年まで上昇傾向に転じ、2026年は減少。



国際収支

●金融収支の改善に支えられ黒字を維持していたが、2020年には赤字を記録した。他方、コロナ禍後のエネルギー需要の急増やロシア・ウクライナ情勢を起因とする油価上昇により経常収支は改善傾向。



外貨準備

●外貨準備高の8割強をSOFAZが保有。2015年、2016年は経済低迷に伴い減少したものの、その後の保守的な油価設定等で財政状況が回復し、外貨準備が増加。

外貨準備高(単位: 億米ドル)

